

町史編さんいよいよスタート

室長に宮田栄門さん、刊行は未定

このたび、黒崎町で町史編さん事業が始まり、私が町史編さん室長に就任いたしましたこととなりました。今まで郷土誌の研究に打ち込んでおりましたが、それはあくまで個人の問題で公けのものではありません。もとより浅学非才の身に大きに身のひきご承知のおおぼうしてあり、では相当な困難が予想されます。また、町民により親しまれる町史とするためにも皆さん一人一人のご協力とご理解をお願いいたします。(宮田栄門室長あいさつ)



宮田室長
黒崎町は大きく変わらざる思いです。

歴史が霧散しないうちに今年度から町では町史編さん事業をスタートさせました。昨年の町制施行十周年を機に、二十世紀に向けての町づくり、そのためにはまず町の歴史を明らかにする必要があります。残念ながら、黒崎町には町史がありません。今まで個人、自治会などで発行したものはありましたが(別記参照)町の歴史の全体像をとらえたものではありません。黒崎町は年々都市化の波を受け著しい変化を遂げています。かつて田畑だったところには住宅が建ち並び、町の中心を北陸自動車道、上越新幹線が縦断し、外観は大きく変わりました。人々の記憶からも古い歴史が忘れ去られようとしています。例えば水道が家庭に入ったのはいつだったでしょうか。昭和三十年代半ばです。それまでは井戸や用水で用を足していたのです。記憶だけでなく、貴重な古文書や史料、写真、手紙、古い建物や芸術品、あるいはおばあさんの語る昔話…このままでは有形無形の黒崎町の歴史が霧散してしまいます。

資料、組織、計画づくり

町史編さん室のスタッフは三名。室長として、郷土史家の宮田栄門さんを迎えました。宮田さんは「大野町の今昔」の出版や、広報で「黒崎町の今昔」を連載されるなど、黒崎町の歴史に関しては第一人者といえます。事業初年度ということで当初予算は八十九万五千円、編さん室は総務課に所属し、役場の一階に独立した部屋を設けています。今年度は、①資料収集と取材、②編さん委員会などの体制づくり、③編さんの長期計画の策定、の三点を事業内容としています。

①町史の基礎となるのは史料



町史編さん室。スタッフは3名で多忙の毎日

あなたの手で町史をアンケートにご協力ください

町史編さん室では6月に町史アンケートを町内の全家庭に配布しました。現在回収中ですが、回収が思わしくありません。用紙をなくされたかたも多いかと思しますので、再度アンケート内容を下記に掲載しました。できましたら、記入の上、自治会長さんに渡すか直接持参してください。電話でもかまいません。よい町史を作るためぜひご協力ください。

町史編さんアンケート

- あなたのお宅に次のものがありますか
 - 古い文書、手紙、証文、帳面、書付、通など
 - 黒崎町内からの出土品(石器、土器、古銭、陶磁器など)
 - 由緒ある仏像や仏画
 - 黒崎町に関係のある人の書いた書画(諸芸術品を含む)や著書
 - 系図、縁起や由来書、由緒ある宝物など
 - いろいろな古い民具(物の製造、商い、作業、暮らしなどに使用された道具)
 - 古い地図、写真、絵馬、奉納額など
 - 黒崎町に関係ある新聞記事や統計書
 - その他、町史の資料になるとと思われるものがありましたら具体的に記入ください
- あなたの地域や家に次のようなものがありますか
 - 塚、石塔、石碑など(庚申塚、五輪塔、道徳神、石仏道しるべなど)
 - 古い建物(農家、商家、土蔵、倉など)
 - その他、町史の資料になるとと思われるものがありましたら具体的に記入ください
- 次のことをくわしく知っていますか
 - 黒崎に関係ある伝説や昔話
 - 昔のいろいろな行事(お祭り、正月、お盆、節句、講など)
 - 黒崎の昔の暮らしぶり(衣、食、住、生業など)
 - 民謡(わらべ唄、作業唄、盆踊唄など)
 - 黒崎に関係あることわざ
 - その他、上記以外に町史に関係あると思われる事をご存知の場合、下欄に記入ください
- 町外に移住した人や町内にいる人で
 - (1)のものを持っている人、(3)のことをよく知っている人などご存知でしたら、お知らせください。役場総務課町史編さん室 ☎7-3101(内線14)

町史メモ

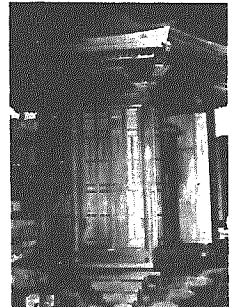
今までに出版された町史関係の本
越後木場城(青木宏)※
板井風土記(佐々木市治郎)※
越後木場の郷土誌(木場自治会)※
大野町の今昔(宮田栄門)※
筆の運びは拙いが(渡辺奎二)※
黒鳥物語(渡辺奎二)※
※は絶版。六冊とも町立図書館にありますのでぜひ一読を。

町史に関連する事業
文化財保護条例：町内の文化財を現在まで二十二点指定し保護重要美術工芸品保管管理制度：幅広く文化的財産を保護
常民文化史料館：緒立にあります。入館料五十円。民具、農具、緒立遺跡の土器など数百点を展示視察した三市町の状況
亀田町：五十八年〜六十二年(予定) 通史編と資料編
燕市：五十五年〜六十四年(予定) 通史2巻資料2巻民族1巻村松町：四十九年〜五十八年完了、通史二巻資料五巻昔話一卷郷土誌六巻 総事業費四千万円
町史編さん機構図(一つの案)

上山田の岩林本七さん宅に昔、新発田の殿様から拝領した刀があると町民アンケートで分かったので取材した。当主本七さんが父から口伝として聞いた脇差拝領の由来は次のようなものである。若林家は屋号を「本蔵」といい今は農家だが、三代前までははとうびとして「田一丁歩を川」を掘り西川の下に樋管を通すことになったが、この樋管の設計施工が大変難しく、その依頼が宮大工として評判の高かった本蔵にきた。本蔵の手によって文政三年(一八二〇)工事は完了した。完成を喜ばれた藩主溝口公はほうびとして「田一丁歩を

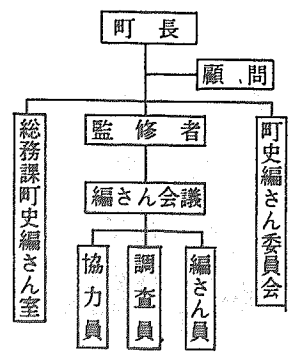
発見 江戸時代の名宮大工 若林 本蔵

では代々宮大工の棟梁であった。今から百七十年ほど前、幕末に近い文政の初めころである。当時は大湯、田湯、鎧湯など多くの湯があり、融雪あるいは豪雪時になると農民は水との闘争であった。このため新たに川(今の新



本蔵作の満徳寺経蔵(月湯村)

本蔵が拝領した脇差は何代かの作か分らないが、このとき若林という姓も与えられ、名字帯刀を許されるようになったという。若林本蔵はいくつかの建造物を残したというが、その一



今までに発行された町史関係の本